

平成24年度公共用水域の水質測定結果について

平成25年 9月10日
環境政策課

愛媛県環境審議会の答申を受けて策定した「平成24年度公共用水域の水質測定計画」に基づき調査した結果は、次のとおりでした。

- 1 調査期間 平成24年 4月～平成25年 3月
- 2 実施機関 愛媛県、松山市、国土交通省、独立行政法人水資源機構
- 3 測定項目及び調査地点

区分		生活環境項目	健康項目	ダイオキシン類	要監視項目	その他
項目数		10	27	1	26	16
地点数	河川	71	39	10	25	
	湖沼	8	6	—	1	
	海域	130	25	4	6	

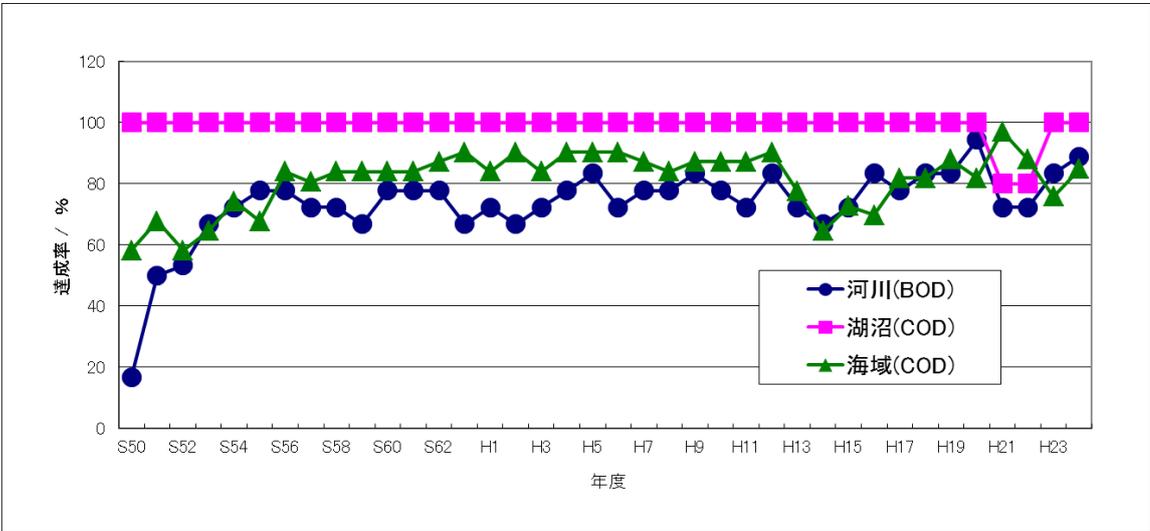
4 調査結果の概要等

(1) 生活環境項目

ア 環境基準点における環境基準の達成状況は、河川(BOD)が89%、湖沼(COD)が100%、海域(COD)が85%であり、全体では88%であった。

BOD又はCODの環境基準の達成状況

区分	24年度		(参考) 23年度	
	達成率	達成水域数／調査水域数	達成率	達成水域数／調査水域数
河川	89%	16/18	83%	15/18
湖沼	100%	5/5	100%	5/5
海域	85%	28/33	76%	25/33
合計	88%	49/56	80%	45/56



参考：環境基準達成率の経年変化（BOD又はCOD）

○未達成水域の状況等

区分等		24年度	23年度
河川	AA類型	石手川(乙)、岩松川水域	石手川(乙)
	A類型	—	重信川(甲)、肱川水域(甲)
湖沼	A類型	—	—
海域	A類型	伊予三島・土居海域、西条海域(丙)、東予海域(丙)、伊予灘一般、宇和海一般	伊予三島・土居海域、新居浜海域(丙)、西条海域(丙)、東予海域(丙)、宇和海一般、燧灘東部
	B類型	—	三島・川之江地先海域(3)、三島・川之江地先海域(4)

イ 全窒素及び全燐の環境基準の達成状況(海域のみ)

	24年度	23年度
全窒素	100% (5水域)	100% (5水域)
全燐	100% (5水域)	100% (5水域)

(2) 健康項目

調査を実施した70地点(河川39地点、湖沼6地点、海域25地点)全てにおいて、環境基準を達成した(平成23年度も達成)。

健康項目の調査結果概要

(単位: mg/L)

項目	調査結果	基準値
カドミウム	<0.001	0.003以下
全シアン	<0.1	検出されないこと
鉛	<0.005	0.01以下
六価クロム	<0.04	0.05以下
砒素	<0.005~0.007	0.01以下
総水銀	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	<0.0005	検出されないこと
PCB	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	<0.002	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	<0.1	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	<0.003	0.03以下
テトラクロロエチレン	<0.001	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	<0.0002	0.002以下
チラム	<0.0006	0.006以下
シマジン	<0.0003	0.003以下
オキシカルブ	<0.002	0.02以下
ベンゼン	<0.001	0.01以下

セレン	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	<0.02～2.0	10以下
ふっ素	<0.1～0.24	0.8以下
ほう素	<0.1～0.63	1以下
1,4-ジメチルベンゼン	<0.005～0.010	0.05以下

(3) ダイオキシン類

調査を実施した14地点（河川10地点、海域4地点）全てにおいて、環境基準を達成した（平成23年度も達成）。

ダイオキシン類の調査結果概要

(単位：pg-TEQ/ℓ)

(単位：pg-TEQ/g)

区分	水質			底質		
	地点数	調査結果	基準値	地点数	調査結果	基準値
河川	10	0.067～0.50	1以下	9	0.22～4.5	150以下
海域	4	0.017～0.11		4	0.40～3.6	

(4) 要監視項目

調査を実施した32地点（河川25地点、湖沼1地点、海域6地点）において、2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過した。

(平成23年度も2地点でアンチモンが、1地点でウランが指針値を超過)

要監視項目指針値超過地点の調査結果概要

(単位：mg/ℓ)

区分	超過地点	項目	調査結果 (年平均値)	指針値	要因等
河川	加茂川水域St-7	アンチモン	0.15	0.02	地質由来
	砥部川水域St-2		0.066		
海域	松山海域St-8	ウラン	0.0031	0.002	海水由来

(5) その他項目

内分泌攪乱化学物質（環境ホルモン物質）については、調査を実施した5地点（河川1地点、海域4地点）全てにおいて、4項目ともに検出されなかった（平成23年度も検出されず）。

内分泌攪乱化学物質の調査結果概要

(単位：μg/ℓ)

区分等	調査地点数	ノルフェノール	4-オクチルフェノール	ビスフェノールA	DDT
河川	1	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
海域	4	N. D.	N. D.	N. D.	N. D.
定量下限値	—	0.1	0.01	0.01	0.05